



認知症情報共有パス 「つながりゅうささえ愛ノート」

活用のススメ

このノートを紹介して、認知症の人の日常生活の様子や診療情報、介護サービスの利用状況などを関係者が情報共有することで、本人に寄り添った支援を提供することができます。

ノートを介して「つながる」「ささえあい」

ノートを使うことで、医療や介護の利用の経過を専門職に説明しやすくなったり、専門職に訊きづらかったことが質問しやすくなります。

家族



薬剤師



医師



治療の経過を確認することで、処方薬の目的や効果を本人や家族に分かりやすく説明することができます。

生活歴や日常生活の様子を確認することで、適切な診断や治療の参考とすることができます。



認知症の人

あなただけのノートを持つことで、あなた自身に寄り添った形で医療や介護サービスを提供してもらえます。

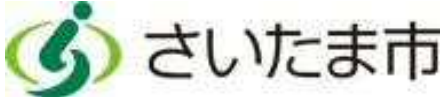
介護職



服薬状況や治療効果を確認することで、症状にあったケアを提供するための参考とすることができます。また、本人の主治医に情報提供や質問をしやすくなります。

ケアマネジャー

利用者の支援の経過がその場限りのメモではなく、ノートに記録されることで、サービスの計画を見直す際の参考とすることができます。



裏面に具体的な活用例があります



さいたま ささえあい ストーリー ～ノートの実用例～

最近、もの忘れが目立つようになってきた「さいたま花子」さん。
同居する息子さんの勧めで専門医療機関に受診し、アルツハイマー型認知症と診断されました。その後、要介護1と認定され、デイサービスの利用を始めました。



ノートの交付

息子さんは、ケアマネジャーに教えてもらった「つながりゆうささえ愛ノート」を、区役所高齢介護課で交付してもらいました。



家族・介護関係者のページの記入

息子さんは、花子さんと一緒に、「家族・介護関係者のページ」の記入できる部分を記入しました。また、家族構成図など、書き方の分からない部分は、ケアマネジャーに記入してもらいました。



情報共有連絡票の記入

最近、食欲がなくなってきた花子さん。息子さんは、今度病院に行ったときに言い忘れないように、「情報共有連絡票」にかかりつけ医あての質問として記録しておきました。



かかりつけ医の受診

かかりつけ医は、「医療機関のページ」に診断の情報や検査所見等を記入しました。また、「情報共有連絡票」から花子さんの食欲が低下していることが分かったので、処方している薬による副作用を疑い、処方の量を少し減らしてみることにし、「治療効果」の欄と「情報共有連絡票」の欄にその旨を記入しました。



薬局での処方

かかりつけの薬局では、「医療機関のページ」の「治療効果」欄で、かかりつけ医が薬の量を減らした理由を確認し、息子さんに分かりやすく説明しました。



デイサービスの利用

花子さんの通うデイサービスでは、薬の減量後、デイサービスでは食欲低下がみられなくなったため、「情報共有連絡票」にすべての関係者あてに記入しました。一方、薬の減量によって、認知症の症状に変化が生じないか、スタッフ全員で注意してケアをするよう心がけました。



かかりつけ医の受診

かかりつけ医は、「情報共有連絡票」から、食欲低下が改善されてから一定期間経過したことを確認し、薬の量をもとに戻すとともに、「治療効果」の欄に症状の変化について記入しました。



こうして、花子さんとそのご家族は、地域の多職種とノートを介して繋がることで安心して暮らし続けることができました。



ノートを上手に利用しましょう

- ケアマネジャーや利用している施設の職員等を通じて交付することもできます。
- すべてのページ、すべての項目を記入する必要はありません。記入できるところから、少しずつ埋めていきましょう。
- 既存の書類をノートに綴じ込んでいただくことで、記入に代えていただくことも可能です。
例) ・要支援・要介護認定における「認定結果通知書」や「利用者基本情報」
・診断結果や診療内容を記載した書類
- 「情報共有連絡票」に質問や回答を記入した場合は、記入したページに付せんを貼っておくと、見てもらいやすくなります。
- クリアファイルにお薬手帳を入れて、一緒に携帯するようにしましょう。